

平成27年度第1回井口地域審議会会議録

- 1 開催日時 平成27年6月3日(水)午後2時から4時10分まで
- 2 開催場所 南砺市井口行政センター(2階)特別会議室
- 3 出席委員 10名 林 則雄、中山秀一、小林加津實、北村英男、池田淑則、中山清貴、林真寿美、柳田由紀、吉田しのぶ、高野芳美
- 4 欠席委員 2名 吉田治夫、塚崎 貢
- 5 市側出席者 田中市長、長澤市長政策室長、高山総務部長、原田産業経済部長、山崎井口行政センター長、宮崎市民協働課長、齊藤財政課長、山田秘書係長、石本市民協働課副主幹、山田井口行政センター次長
- 6 傍聴者 1名
- 7 協議議題 ①平成27年度南砺市予算について
②公共施設等総合管理計画の作成について
③まち・ひと・しごと創生事業(総合戦略)について
④定住促進事業について
⑤福野工場用地活用基本計画について
⑥南砺市中小企業・小規模事業者振興基本条例について

8 会議経過

○開会

山崎センター長から開会の宣言と吉田委員、塚崎委員の欠席報告を行う。

○委嘱書の交付

新規委員に対し机上にて委嘱書を交付。

○会長挨拶

林会長より開会の挨拶。

○市長挨拶

日頃、南砺市政にご理解を賜り厚く御礼申し上げます。合併して10年経過するが、南砺市は、これから分庁舎のあり方など大きな取り組みを次に進めなければいけない時期でもあるので、それぞれの地域の皆さんからご意見を聞くため、この地域審議会を延長し取り組んでいるところである。南砺市としても地方創生の事業をすすめていく中で、本年9月の定例会に向け、総合戦略と長期ビジョンを策定している。今回、国がいう地方創生はラストチャンスかもしれないという思いでしっかり取り組んでいかなければいけないと思っている。そのような地方創生、総合戦略を策定する中で、まず5年間の実施計画を策定するが、行財政改革若しくは公共施設のあり方に関しても30年という期間でこの地域のことを考えていく必要があると思う。本日はそのことも含めて、公共施設の管理計画の説明もさせていただく。一方で、南砺市の財政的な問題はというと、今、行財政改革を進めていかなければ、やはり20年後30年後には財政が大変厳しくなる。5年後10年後も同じようにシミュレーションしながら、予算を作っていかなければいけない。その辺も含めて説明をさせていただきたい。合併して11年目。4町4村が合併したスケールメリットを活かし、南砺市が一步前進するように様々な計画を市民の皆さまに丁寧に説明をして、ご理解をいただきご意見を賜りながら進めることには変わりないので、この地域審議会でも様々なご意見を賜りそのことを市政に反映させて

いきたい。

○協議議題

林会長が議長となり順次議事を進める。

① 平成 27 年度南砺市予算について

(高山総務部長から「もっと知りたい南砺の仕事」により説明)

(議長) 質問やご意見はあるか。

(委員) 井波高校の跡地利用に関して、体育館は残すが、地域包括が入る施設を建設し活用していくということであった。以前、市で発達障害の疑いのある子の調査をしたが、それに関し発達障害児支援センター等を作る話もあったと思うがどのようになっているのか。

(市長) 発達障害児の対策については、砺波市、小矢部市、南砺市 3 市で取り組みをやっていけばどうかと考えている。これは、福祉や医療圏の圏域の中で取り組みをしていく方がいいのではないかとということで、昨年から 3 市で協議をしている。相談や研修する場所は、今回の施設の中に作るができるが、相談窓口を作るかどうかは未定で、次の段階としてどのような施設が必要かということは別に考えたいと思っている。現在ある施設の将来をどうするかということも同時に考えなければいけないという議論をしている。

(議長) 他にご意見が無ければ、次に、2 番目の公共施設等総合管理計画の作成についてから 5 番目の福野工場用地活用基本計画までを長澤室長より、6 番目の南砺市中小企業・小規模事業者振興基本条例についてを原田部長より説明を受け一括して質疑応答とする。

② 公共施設等総合管理計画の作成について

③ まち・ひと・しごと創生事業（総合戦略）について

④ 定住促進事業について

⑤ 福野工場用地活用基本計画につて

(長澤市長政策室長から資料により説明)

⑥ 南砺市中小企業・小規模事業者振興基本条例について

(原田産業経済部長から資料により説明)

(議長) 質問やご意見はあるか。

私からまず質問するが、公共施設の総合管理計画について、庁舎の分庁舎のあり方、考え方について整理をしていかなければいけないと話があったが、計画との絡みは実行上どうなるのか。2 点目は、市に 437 の施設があると記載されているが、人員のこともあるが、行政センターの整理についても同じように考えていくのか。

(市長) 町部の 4 庁舎に現在 7 部局が分かれて入っているが、庁舎の統合問題については、まずはそのような分庁舎について本当にこのままでいいのか、若しくは、早い時期に 1 つにしなければいけないのではないかと、という 2 つの選択肢がある。それを考える中で、その部局が今のままでいいのかという機構改革と庁舎問題の両方で考えていくべきだと思っている。行政センターというものは、住民の皆さんにサービスを低下させないように考えていく。その中で証明書等の交付はどうあるべきか、地域振興はどうするのかそういうことも含めて行政センターは独自に検討していかなければいけないと思っている。最終的に機構改革が終わった時点で、職員数が決まっ

てくるが、どんな機構改革をすれば今4つに分かれている庁舎を1つにする方向にできるのか、大きくスタートをしたい。行政センターのような窓口は必要だが、旧4町に分かれている業務は1つの庁舎になった方がいいのではないかと意見も聞こえてくることから、その件に関し皆さんからも意見を聞きたい。また、マイナンバー制度の行政の事務がどのようになるかが今後大きな転換期になっていくと考えられる。証明書関係については既にコンビニで交付出来るが、地域振興窓口は必要で、マイナンバー制度の取り組み次第で今後の窓口のあり方も変わってくる。

(長澤室長) 公共施設総合管理計画は、30年後を考えた計画なので、現状に関わらず8庁舎は施設自体が大きいので減らす方向になると思う。行政センターに関しては窓口なので直ぐに無くすことは難しいが、これだけ大きな建物が必要かということも含め検討していかなければいけない。民間で使ってもらってもいいのではないかという話も一方である。小さな拠点ということで使い勝手を見直すということも含め利用を考えなくてはならないと思う。施設を解体する経費も財政上考えなければいけなく、存続することでその予算が無くなってしまふことのないようしっかり検討していかなければいけない。現在の公共サービスを、行政がそのまま引き続きするのではなく、その施設を民間の方がビジネスで使って、公共サービスを継続していくことや住民の方でやっていただいたりして利益を生むことも考えられる。維持経費だけが掛かるので早く壊したほうが良いものもあり、そういう見極めが大切である。

(市長) 確かにサービスを変えずに民間が出来るものが役所の中にもあり、これから洗い出していくべきだと思う。どの施設をどう使っていくかということは、民間譲渡も含め考えていくので、管理計画の中の面積が全てなくなるものではない。また、中小企業・小規模事業者振興基本条例を策定したが、今まで行政は雇用の場の創出、確保を進めてきたが、そういうものと、地域企業が稼ぐということにも力を入れていかなければいけない。地場の企業が稼ぐということを行政も一緒になって考えていかなければいけない。それが地方創生につながり、雇用につながり、地域への経済効果になっていく。

(議長) 市長から意見を求められた分庁舎について何かご意見はあるか。

(委員) 旧町部の4庁舎は施設も大きく使っていない部分もあり無駄だと思うところがある。井口地域はどこへ行くにもそんなに遠くないので、行政センターが残れば庁舎を統合しても構わないと思う。

(議長) 他に意見はあるか。

(委員) 何時見ても「なんバス」の利用は少ないが、そのようなバスを走らせている目的やその評価をどのように考えているか。

(長澤室長) そのようなご意見はいただいている。病院事業と公共交通は最後の公共サービスの砦だと考えている。廃止することは簡単だが、ご利用されている方が数人でもいる路線を、どの段階で廃止にするのか、福祉事業的な意味合いでも考えられる。五箇山ではデマンド方式をとっているが、今のところ財政的に運行も可能であり、利用されている方がいるところは続けていくべきと考えている。

(市長) バスは、教育と福祉と医療の足でもある。儲かるなら民間で運営できるが、それらを守っていくために、行政サービスとしてどれだけ守っていけるのかが問題である。

- (長澤室長) 総合戦略のワークショップの中の意見として、乗客の利用先の病院やショッピングセンターからお金をもらえばスモールビジネスが出来るのではないかと意見もあった。
- (市長) 地域で事前に会費を集め、誰でも利用できるバスを運行するなど地域で見守る組織作りや社協など様々な仕組みが今後出来てくると思う。
- (委員) 総合庁舎の件について、1箇所で用が済めば便利になると思うが、行政センターに関しては、近所で歩いていく人もいるので、窓口機能は残したほうが良い。先日、新聞に総合庁舎の記事が出ていたが、30年を見越したものとして皆が納得したものでないと良くない。人口が減ることを想定すると総合庁舎のスペースも30年後は半分でよくなるのではないか。その辺の意見もまとめながら進めないといけない。
- (市長) ご意見のとおりで、統合すると前提になった後の話であるが、必要以上のものは作る必要はなく、今あるものを利用するとか、新しいものを作ればいいのかという議論をしている。意見を整理して、時間はかかるが丁寧に進めていきたい。
- (委員) 地域包括から、要支援者を地域で見守りしましょうという話が出ている。私は社協の役員にも携わっているが、井口だけでも自治振興会、社協、ボランティア等様々な団体が各々活動をしている。地域全体で高齢者を見守るときは、住民全体の一人ひとりが見守っていく仕組みを作らないといけない。一部の団体に依頼しただけでは進まない。市としてどういう考え方で何を期待しているのか、又、地域に何を依頼し、どういう仕組みを作るのかということはある程度示していかないと、来年から地域でお願いしますだけでは上手く進んでいけないのではないかと。市としてどのようなスケジュールを考えているのか。
- (市長) 今回の法律改正では、地域での見守りというものを制度化しようということが今年からスタートした。我々が現在やっている介護保険制度は、小矢部、砺波、南砺の3市で介護保険組合を運営しているが、組合では、来年からこの事業に着手する。南砺市は、事前にモデル的にこの事業に取り組んだ方が制度へスムーズな移行ができるのではないかとということで各地域に説明に回っていた。モデル事業の30万円程度では何も出来ないという話は当然あるが、それぞれの地域でやり方は違うのでこの制度にどう合わせていくか考えていく必要がある。今までは、訪問介護が必要な方だと分かれば、市に連絡していたが、これからは、地域に専門職も置き、ワンステップを置く場を地域に作り前に進んでいけないかと期待している。我々も準備段階から地域に入って、自治振興単位なのか地区単位なのかやり易い方法を見出していけば、次のステップに踏み出せると考えている。
- (議長) 地域の専門家がコーディネーターとして対応して連携を取れる様な形でないといけない。社協との話の中でも、具体的に何が出来るのかとか、どうすればいいのかとかという声は多い。
- (市長) 地区社協では、以前から地道にやっている方も多いので、そういう方々と民生委員・児童委員の方々と専門職でチームが作れるかどうかのポイントである。ただ、役職が団体の代表の方であれば、1～2年の任期で代わってしまうので継続できる方が相応しいと思う。
- (委員) 見守りが必要な70歳で一人暮らしの人もいれば、まだまだ元気な人もいます。社

協で記念品を宅配するときに合わせ、体調など様子を見てくることもしているが、それはあくまで申請方式であり、実際に申請されていない方もおられる。最近畑に出ていないことを心配する話を近所ですることがあるが、組織がある訳でないので、そのお宅の様子を見に入っていくことも出来ない。

(市長) 自分から介護が必要だと直接言って来る方は少なく、むしろ、周りの人が大丈夫かと思って市とかに相談に行くことが多い。市に相談する前に、地域で情報共有が出来れば少し違うことになるかと思う。最近畑で顔を見ないことでお宅を訪問するのは難しい問題ではあるが、専門職がいれば、その話を受けて訪問するなど、まず太いパイプを作っていかなければいけないと思う。

(委員) 2点質問したい。地方創生の問題や総合戦略や分庁舎問題にしても人によって色々な考え方があると思う。30年後、最終的に市としてこういう形にしたいとかこう考えたいとかいうことを経緯も含め市民に分かるようにして欲しい。途中のスケジュールや時期などは状況により変化するかもしれないが、いつの間にか計画が変わってしまっているというのは納得がいかない。もう1点は、行政で様々な制度や条例を作っているが、見直しできるものもあるし活用していないものは変えていってもいいと思う。利用されていないにもかかわらず、サービスの制度ばかり増えて分かりづらくなってしまう。今回の計画も時間が無い中、様々な意見を集約し作るのは大変な作業だと思うが、個別の施策をまず市民に伝えて欲しい。

(市長) 現状維持が一番楽なことであるが、大事なことは、30年後にどういうまちを創るかというビジョンが明確でないと分かり難い。長期ビジョンでは、人口をどうするのか、そして30年後も地域の祭りのような風土風習は存続していなければいけないし、この地域の農業生産はどうか等を示しておかないといけない。我々も説明する中で明確にしていかなければいけない。長期ビジョンと、5年間でやらなければいけないことと、今年や来年から直ぐにやれることを選択してやっていくしかない。そのためには、KPI（重要業績評価指標）の効果を明確に出していくので、それを今回は最初から計画に入れて作り皆さんに分かるように説明していきたい。また、来年には総合計画を作ることになっているが、それとリンクさせていかなければいけない。総合計画の中で明確な計画を入れていくことは大事だと思っている。結果的に今までとやり方が変わっても、今ある大切なものをしっかり残すという議論が地域で必要になってくる。残すものは総合戦略でなく総合計画の中に入れていかなければいけないと思うし、整理できるようなものを示しながら進めていきたいと考えている。

(議長) 以上で本日の会議は閉会する。